

2022年12月期 第1四半期業績 説明会資料

The AGC logo is displayed in a white square on a dark blue background. The letters 'AGC' are in a bold, sans-serif font. The 'A' and 'G' are dark blue, while the 'C' is a lighter blue. A small red square is positioned above the 'C'.

AGC株式会社

2022年5月10日

Your Dreams, Our Challenge

2022年12月期 第1四半期業績	P.3
1. 業績のポイントと主要項目	P.4
2. セグメント別・地域別の状況	P.11
2022年通期業績見通し	P.20
付属資料	P.27

2022年12月期第1四半期：

(前年同期比)

売上高 4,727 億円 (+791億円)

営業利益 578 億円 (+136億円)

親会社の所有者に帰属する

当期純利益 305 億円 (+17億円)

- 原燃材料価格高騰の影響を受けたものの、苛性ソーダ、塩化ビニル樹脂および建築用ガラスの販売価格上昇、フッ素関連製品の出荷増により前年同期比で増収増益
- 戦略事業は順調に拡大
- 第1四半期における売上高、営業利益としてはいずれも過去最高

2022年12月期通期見通し：

(前期比)

売上高 18,000 億円 (+1,026億円)

営業利益 2,100 億円 (+38億円)

- 現下の不透明な社会情勢、経済情勢を鑑み、2022年2月発表時の業績見通しから変更なし

1. 業績のポイントと主要項目

2022年12月期 第1四半期業績

(億円)

	FY2021 1Q	FY2022 1Q	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)減少要因
売上高	3,936	4,727	+ 791*	(+) 建築用ガラス、フッ素関連製品、電子部材の出荷増加 (+) クロールアルカリ製品、建築用ガラスの販売価格上昇 (+) 円安
営業利益	442	578	+ 136	上記に加え、 (+) フッ素関連製造設備の稼働率向上に伴う製造原価低減 (-) 欧州における天然ガス価格上昇 (-) 液晶用ガラス基板や電子部材の新規設備立ち上げ等に伴う減価償却費増加 (-) 為替の影響によるディスプレイ製造原価上昇
税引前利益	442	544	+ 102	上記に加え、 (+) 為替差益を計上 (-) 事業構造改善費用を計上
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	288	305	+ 17	
為替レート (期中平均)				
JPY/USD	105.90	116.20		
JPY/EUR	127.69	130.39		
原油(Dubai,期中平均)				
USD/BBL	60.01	95.57		

* うち、為替差影響は+217億円、連結範囲変更の影響は▲82億円

セグメント別業績 前年同期比較

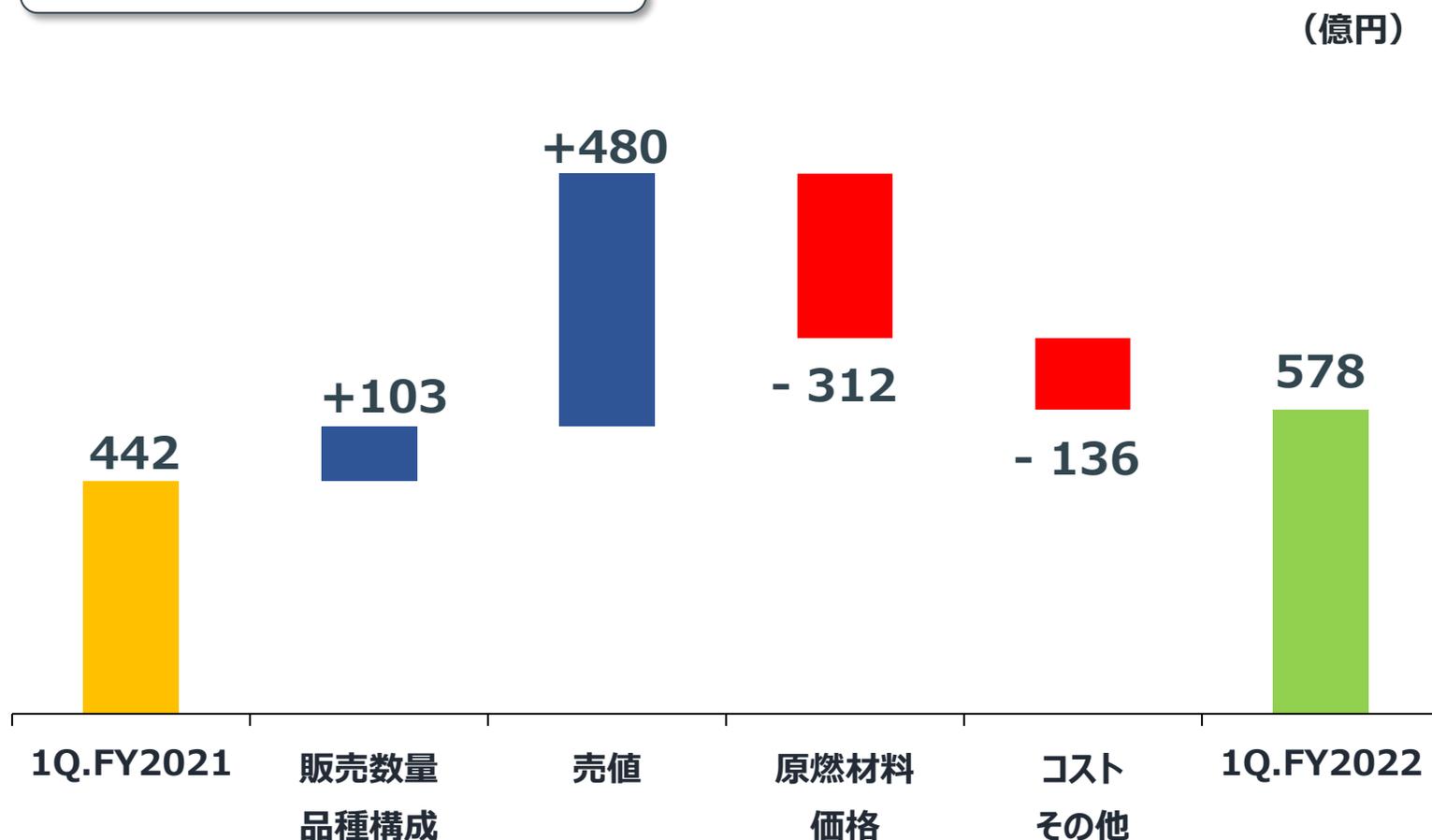
(億円)

	FY2021		FY2022		増減	
	1Q		1Q		(b)-(a)	
	(a)		(b)			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス*	1,806	95	1,976	40	+ 171	▲ 56
電子*	695	87	760	80	+ 64	▲ 7
化学品	1,373	255	1,922	452	+ 549	+ 197
セラミックス・その他	176	4	199	8	+ 22	+ 5
消去	▲ 115	1	▲ 130	▲ 2	▲ 15	▲ 3
連結合計	3,936	442	4,727	578	+ 791	+ 136

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析(1Q.FY2022 vs. 1Q.FY2021)

前年同期比 136億円増益



	2021/12	2022/3	増減
現金及び現金同等物	1,958	2,384	+ 426
棚卸資産	3,301	3,653	+ 352
有形固定資産・無形 資産及びのれん	15,067	15,604	+ 537
その他	6,334	6,571	+ 237
資産合計	26,660	28,212	+ 1,552
有利子負債	6,032	6,505	+ 473
その他	5,815	6,087	+ 273
負債の部	11,847	12,593	+ 746
親会社の所有者に 帰属する持分合計	13,142	13,806	+ 664
非支配持分	1,672	1,813	+ 141
資本の部	14,814	15,619	+ 805
負債及び資本合計	26,660	28,212	+ 1,552
D/E比率	0.41	0.42	

(億円)

← 為替差影響
+1,040億円

(億円)

	1Q	
	FY2021	FY2022
税引前利益	442	544
減価償却費及び償却費	386	427
運転資金増減	10	▲ 266
その他	75	▲ 101
営業活動によるCF	913	603
投資活動によるCF	▲ 472	▲ 305
フリーキャッシュフロー	440	298
有利子負債増減	4	283
支払配当	▲ 133	▲ 289
その他	▲ 29	▲ 3
財務活動によるCF	▲ 158	▲ 8
現金等に係る換算差額	50	136
現金等の増加額	333	426

	1Q (億円)	
	FY2021	FY2022
設備投資額*	540	404
ガラス	113	82
電子	175	166
化学品	246	156
セラミックス・その他	6	1
消去	0	▲ 2
減価償却費*	386	427
ガラス	137	126
電子	129	163
化学品	116	133
セラミックス・その他	5	5
消去	▲ 0	▲ 0
研究開発費	118	120

【主な設備投資案件】

- ・自動車用製造窯修繕（ガラス）
- ・半導体関連製品製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
- ・ディスプレイ製造窯修繕（電子）
- ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）
- ・東南アジア塩ビ能力増強（化学品）

など

【主な減価償却費増加要因】

- ・電子部材製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）

など

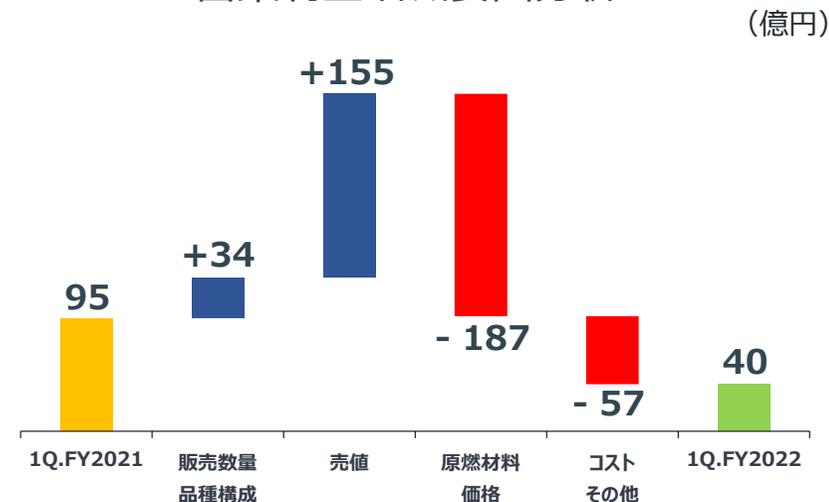
2. セグメント別・地域別の状況

(億円)

	1Q		増減
	FY2021	FY2022	
売上高 **	1,806	1,976	+ 171*
建築用ガラス	891	1,038	+ 147
自動車用ガラス	908	935	+ 28
(セグメント間)	7	3	
営業利益 **	95	40	▲ 56

* うち、為替差影響は+98億円、連結範囲変更の影響は▲80億円
 ** 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析



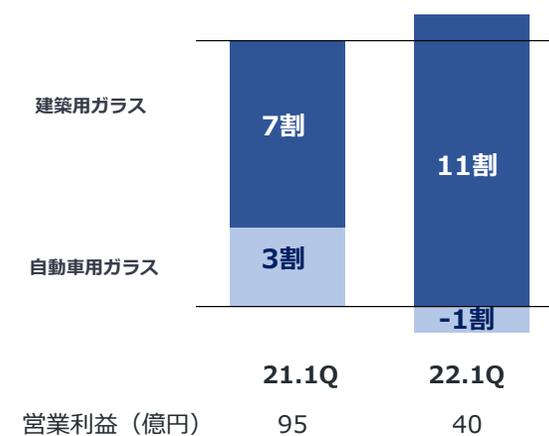
〔建築用ガラス〕

- ・ 南米を除く地域で出荷が増加
- ・ 欧州を中心に全ての地域で販売価格が上昇し、北米事業売却による減収影響をカバー
- ・ 欧州の天然ガス価格が上昇

〔自動車用ガラス〕

- ・ 半導体を含む部品供給不足の影響を受けて出荷が減少したものの、販売構成や円安の影響で増収
- ・ 原燃材料価格の上昇や製造設備の稼働率低下などにより、製造原価が増加

営業利益構成比 (共通費配賦前)



(ご参考) 自動車用ガラスの収益改善策

- グローバルに自動車用ガラス事業の価格政策の見直しを強力に実施
- グローバルに収益改善施策を推進
- 販売数量の拡大は志向せず、高機能・高付加価値の製品に注力

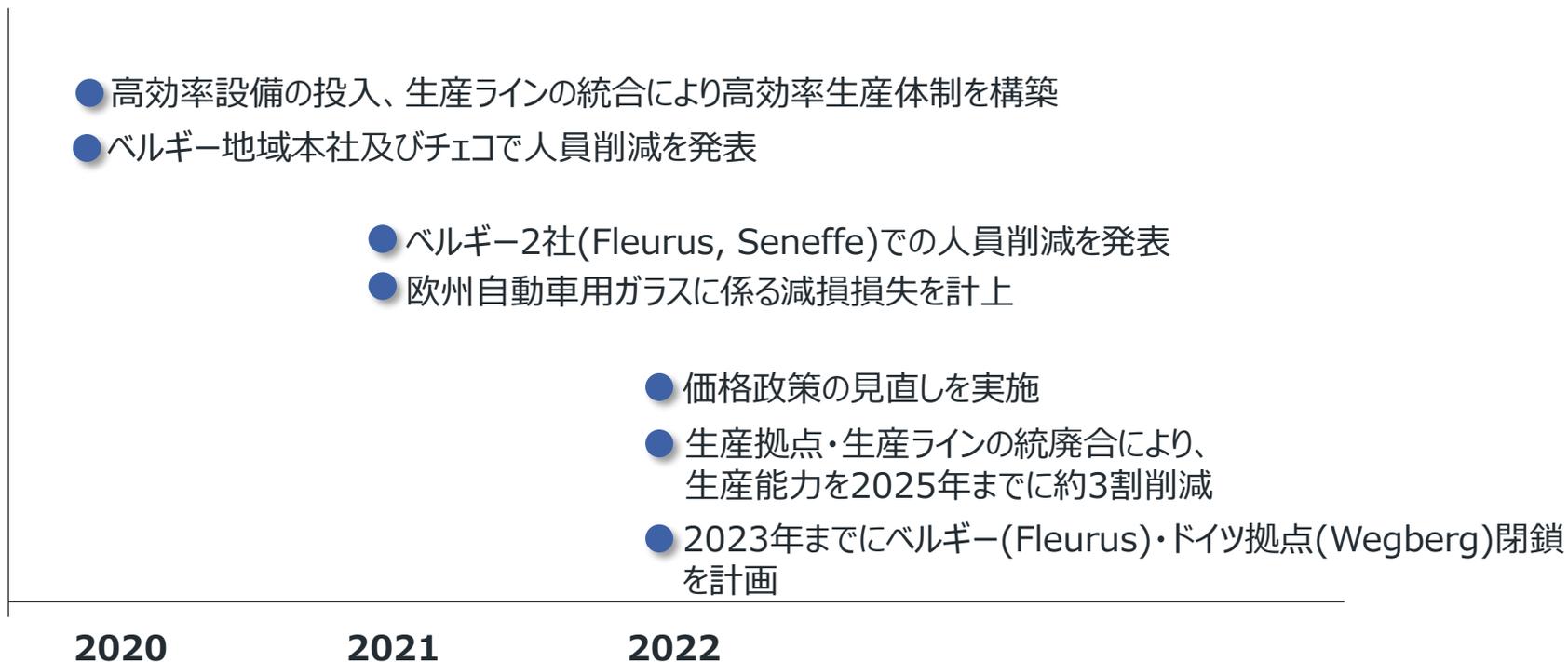
収益改善の3本の柱



(ご参考) 欧州自動車用ガラスにおける取り組み

- 原燃材料高を受け、価格政策の見直しを強力に実施
- 生産拠点・生産ラインの統廃合により、生産能力を2025年までに約3割削減*することを決定
- 2023年に黒字化を目指す

欧州での構造改革



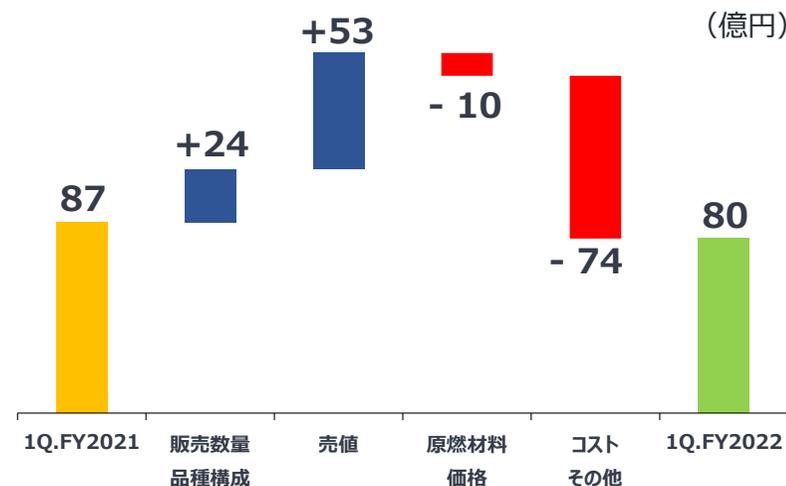
(億円)

	1Q		増減
	FY2021	FY2022	
売上高 **	695	760	+ 64 *
ディスプレイ	461	450	▲ 11
電子部材	230	304	+ 74
(セグメント間)	4	5	
営業利益 **	87	80	▲ 7

* うち、為替差影響は+19億円、連結範囲変更の影響は+7億円

** 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析



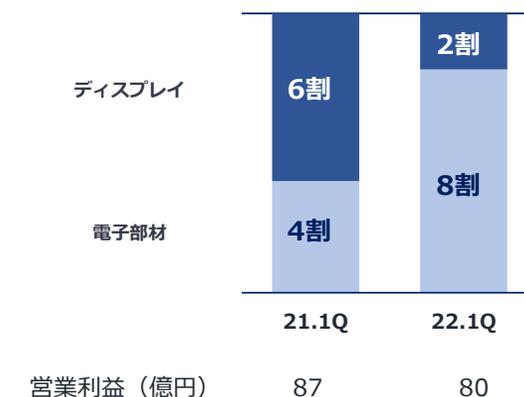
〔ディスプレイ〕

- ・ 液晶用ガラス基板およびディスプレイ用特殊ガラスの出荷は減少
- ・ 液晶用ガラス基板の新規設備立ち上げにより、減価償却費が増加
- ・ 原燃材料高および為替の影響による製造原価上昇

〔電子部材〕

- ・ EUVマスクブランクス等の半導体関連製品、オプトエレクトロニクス用部材およびプリント基板材料の出荷が増加
- ・ 電子部材の新規設備立ち上げにより、減価償却費が増加

営業利益構成比 (共通費配賦前)

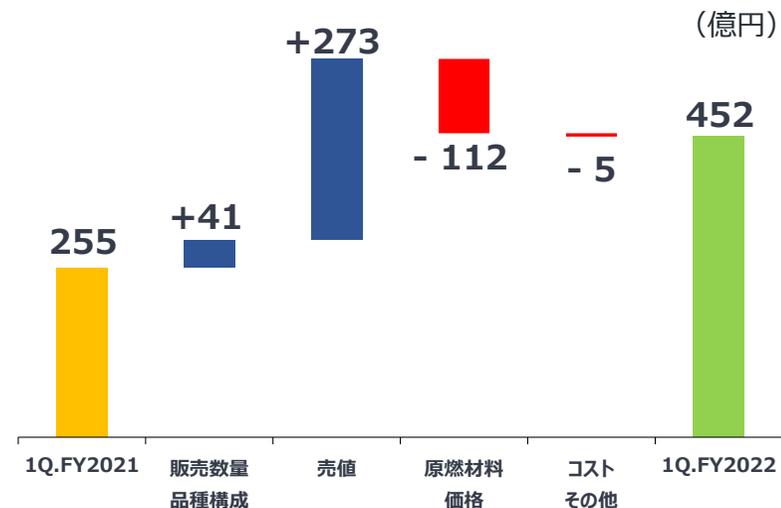


(億円)

	1Q		増減
	FY2021	FY2022	
売上高	1,373	1,922	+ 549*
クロールアルカリ・ウレタン	822	1,217	+ 395
フッ素・スペシャリティ	269	356	+ 87
ライフサイエンス	279	345	+ 66
(セグメント間)	3	4	
営業利益	255	452	+ 197

* うち、為替差影響は+96億円、連結範囲変更の影響は▲9億円

営業利益増減要因分析



〔クロールアルカリ・ウレタン〕

- ・ 苛性ソーダおよび塩化ビニル樹脂の販売価格が上昇

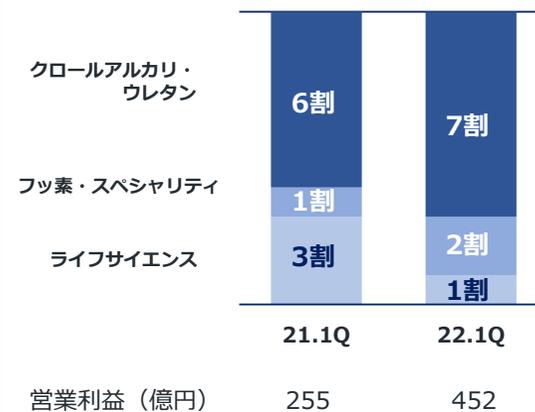
〔フッ素・スペシャリティ〕

- ・ 半導体、自動車向けフッ素関連製品などの出荷が大きく増加

〔ライフサイエンス〕

- ・ 合成医薬CDMOの受託が増加
- ・ バイオ医薬品CDMOは新型コロナウイルス関連の案件も加わり、受託が増加

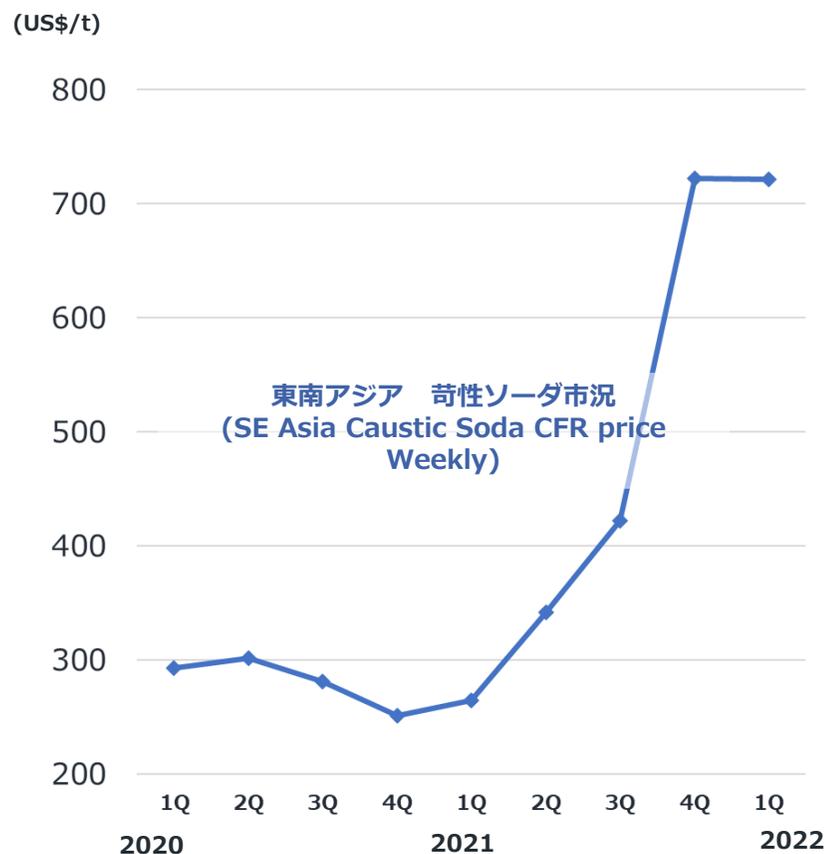
営業利益構成比 (共通費配賦前)



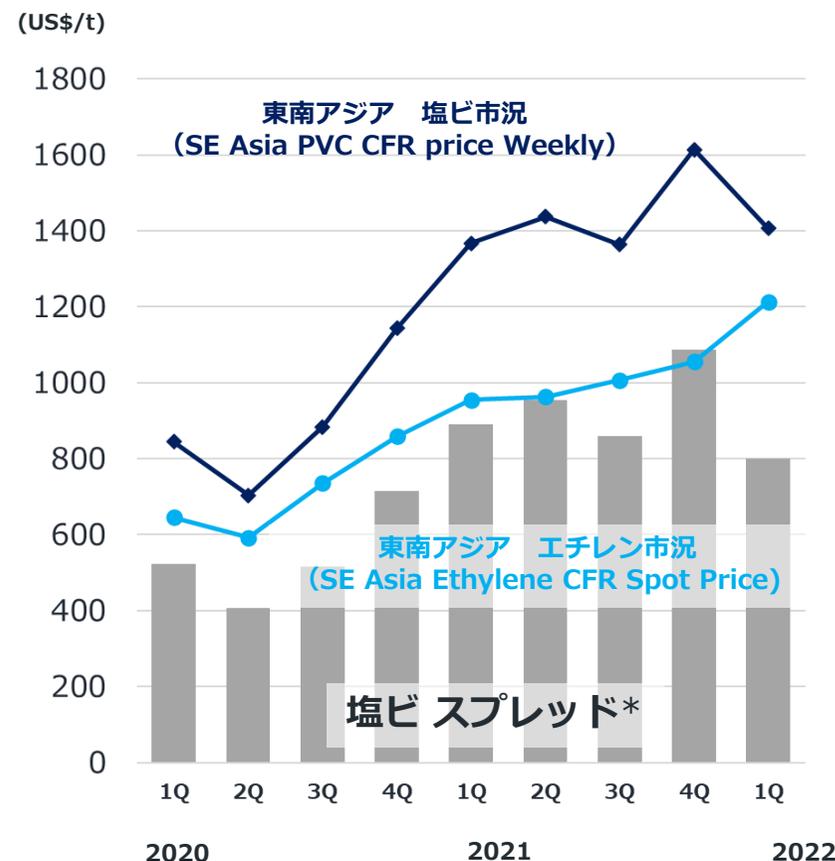
(ご参考) 東南アジア 苛性ソーダ、塩ビ市況

- 苛性ソーダは引き続き高値を維持
- 塩ビ価格は昨年第4四半期のピーク時と比べ若干軟化、エチレン価格の上昇もあって塩ビ・エチレンのスプレッドはやや縮小も好調な市況環境が継続

苛性ソーダ市況

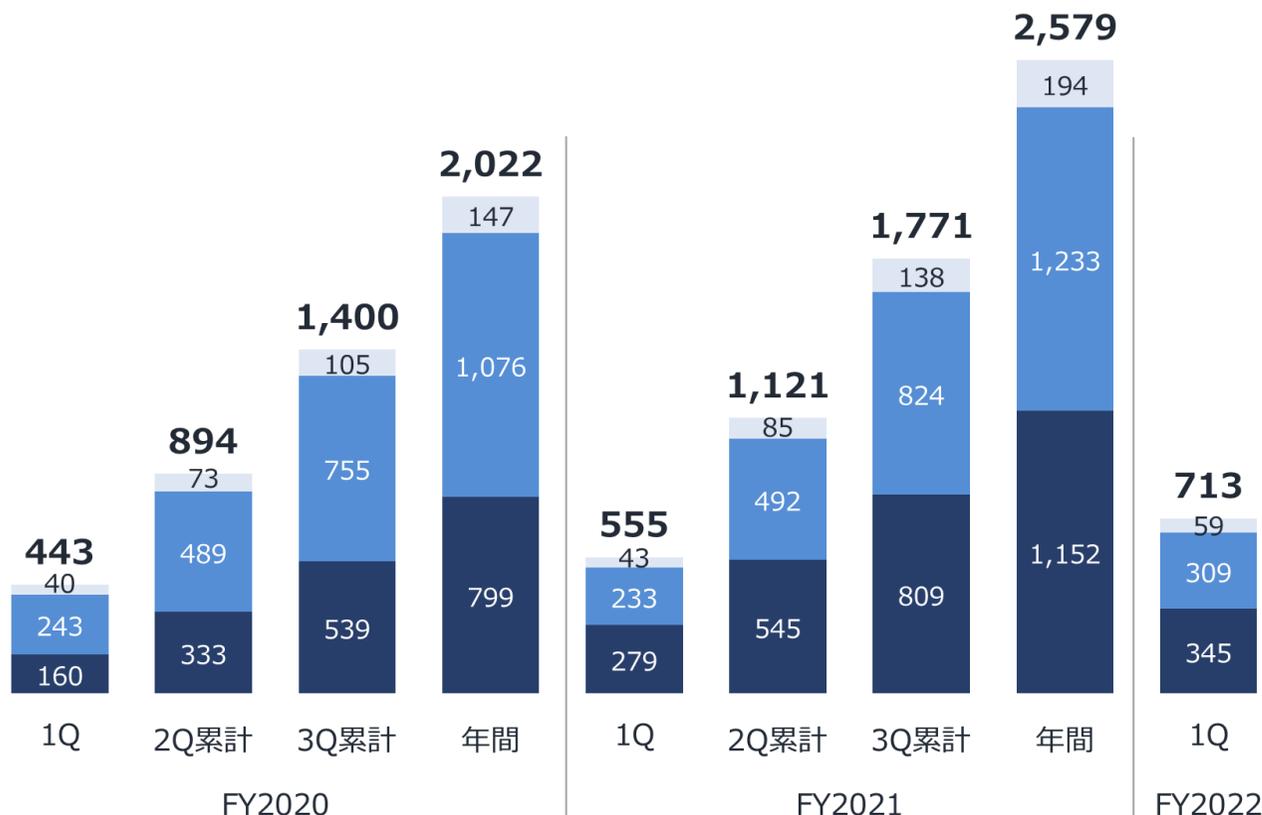


塩ビ市況



■ 順調に業績を拡大

戦略事業売上高推移 (億円)



主な製品・事業

モビリティ

- ・車載ディスプレイ用カバーガラス
- ・モビリティ新規部材 (含5G通信)

エレクトロニクス

- ・半導体関連部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・次世代高速通信用部材
- ・エレクトロニクス用フッ素製品

ライフサイエンス

- ・合成医薬CDMO
- ・バイオ医薬品CDMO

戦略事業 営業利益

93 177 296 444 113 196 346 538 141

(億円)

	1Q		(億円) 増減
	FY2021	FY2022	
売上高	3,936	4,727	+ 791
日本・アジア	2,570	3,127	+ 557
アメリカ	426	456	+ 30
ヨーロッパ	939	1,143	+ 204
営業利益	442	578	+ 136
日本・アジア	376	601	+ 225
アメリカ	37	23	▲ 14
ヨーロッパ	119	48	▲ 71
地域共通費用	▲ 90	▲ 94	▲ 4

為替差影響：
+217億円

新規連結影響：
▲82億円

2022年通期業績の見通し

2022年 通期業績見通し

		(億円)	
		FY2021	FY2022 予想
売上高		16,974	18,000
	(上期)	8,113	8,700)
営業利益		2,062	2,100
	(上期)	952	950)
税引前利益		2,100	1,970
親会社の所有者に帰属する			
当期純利益		1,238	1,150
1株当たり配当 (円)		210	210
	(普通配当160円)		
	(特別配当50円)		
営業利益率		12.1%	11.7%
ROE		10.2%	8.8%*
為替レート (期中平均)	JPY/USD	109.8	115.0
	JPY/EUR	129.9	129.0
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	69.2	80.0
エチレン(CFR SEA)	USD/MT	1,141	1,070

* FY2022予想のROEは、2021年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

セグメント別 売上高/営業利益見通し

(億円)

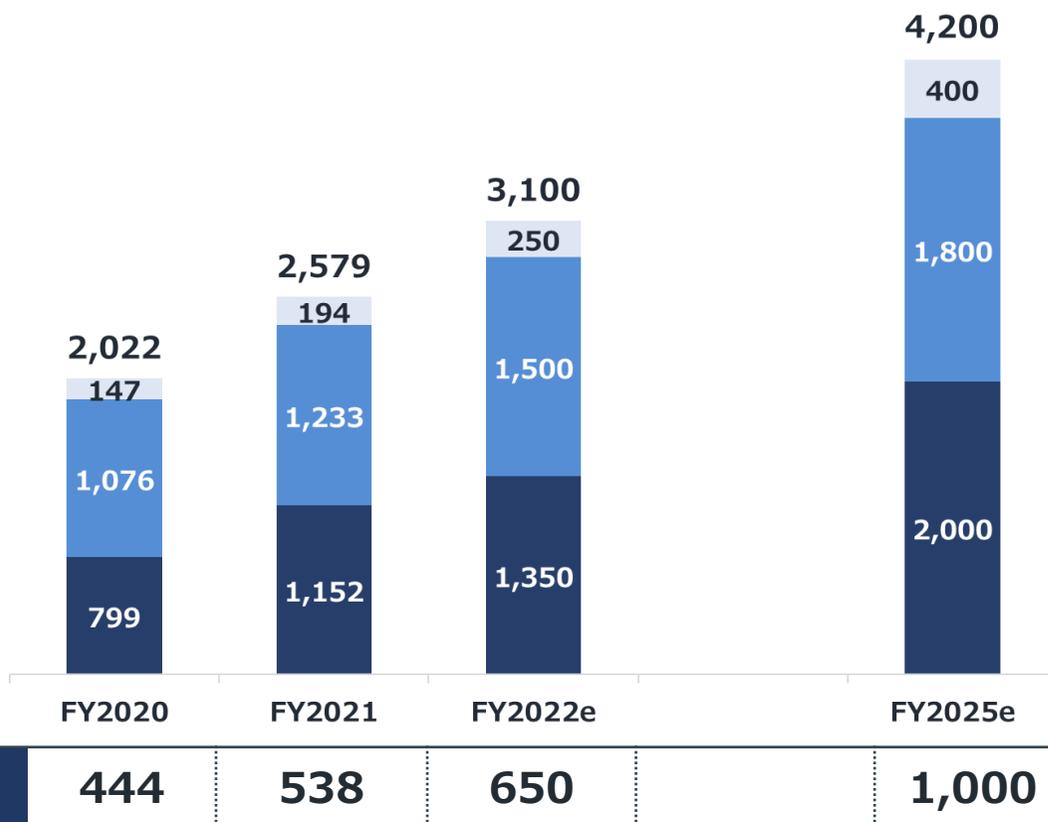
	FY2021		FY2022 予想		増減	
	(a)		(b)		(b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス*	7,343	273	7,650	360	+ 307	+ 87
電子*	3,050	368	3,450	420	+ 400	+ 52
化学品	6,308	1,388	6,600	1,300	+ 292	▲ 88
セラミックス・その他	794	35	800	20	+ 6	▲ 15
消去	▲ 520	▲ 2	▲ 500	0	+ 20	+ 2
連結合計	16,974	2,062	18,000	2,100	+ 1,026	+ 38

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

2022年 見通し	
ガラス	<p>(建築用ガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧州を中心に良好な需給バランスが続き、堅調に推移 ・燃料価格上昇の影響が懸念される <p>(自動車用ガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の自動車生産台数は半導体含む部品供給不足の影響から緩やかに回復 ・燃料価格上昇の影響が懸念される
電子	<p>(ディスプレイ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液晶用ガラス基板は主に中国向けの出荷が増加 ・ディスプレイ用特殊ガラスは出荷が堅調に推移 <p>(電子部材)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半導体関連部材およびオプトエレクトロニクス用部材は出荷が増加 ・プリント基板材料は通信インフラや車載向け市場などの拡大により、出荷が増加
化学品	<p>(クロールアルカリ・ウレタン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの塩化ビニル樹脂製造設備の稼働開始により、出荷は増加 ・2021年に高騰したクロールアルカリ製品の市況は徐々に緩和するものの、高水準を維持する見込み <p>(フッ素・スペシャリティ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半導体、自動車向けフッ素関連製品中心に需要が堅調に推移し、出荷が増加 <p>(ライフサイエンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能力増強により、合成医薬CDMO・バイオ医薬品CDMOともに出荷が増加

■ 順調に業績拡大する見込み

戦略事業売上高推移 (億円)



主な製品・事業

モビリティ

- ・車載ディスプレイ用
カバーガラス
- ・モビリティ新規部材
(含5G通信)

エレクトロニクス

- ・半導体関連部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・次世代高速通信用部材
- ・エレクトロニクス用フッ素製品

ライフサイエンス

- ・合成医薬CDMO
- ・バイオ医薬品CDMO

(億円)

設備投資額・減価償却費・研究開発費

年間 (億円)

FY2021 FY2022e

	FY2021	FY2022e
設備投資額*	2,165	2,800
ガラス	509	500
電子	696	880
化学品	942	1,400
セラミックス・その他	22	20
消去	▲ 3	▲ 0
減価償却費*	1,668	1,800
ガラス	546	540
電子	603	680
化学品	500	560
セラミックス・その他	20	20
消去	▲ 1	▲ 0
研究開発費	494	540

【主な設備投資案件】

- ・電子部材関連製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ窯修繕（電子）
- ・東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）

など

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

(ご参考)

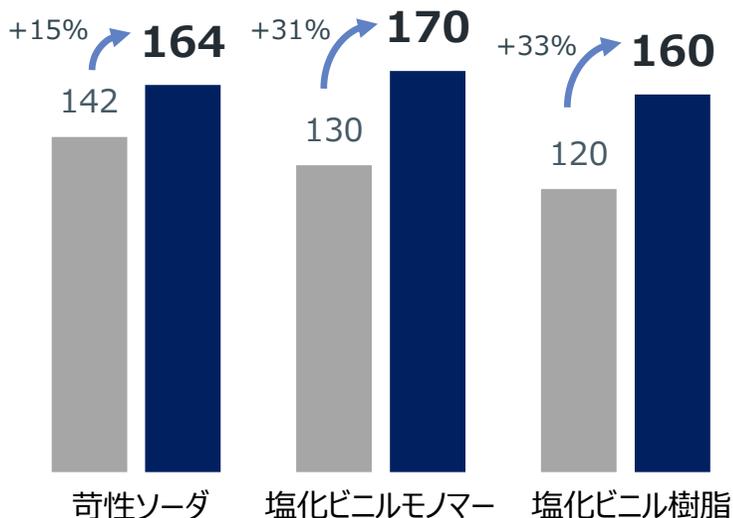
タイでクロール・アルカリ事業の設備能力を大幅増強

- 当社として過去最大規模となる約1,000億円の投資
- 東南アジアでの当社ポジションは更に上昇
- 年率4%で成長する東南アジア地域の需要を着実に捕捉

東南アジアクロールアルカリ生産能力推移

■ 2022 ■ 2025

(単位：万トン)



東南アジア生産能力ベースのシェア (増設後)

苛性ソーダ



塩化ビニル樹脂



付属資料

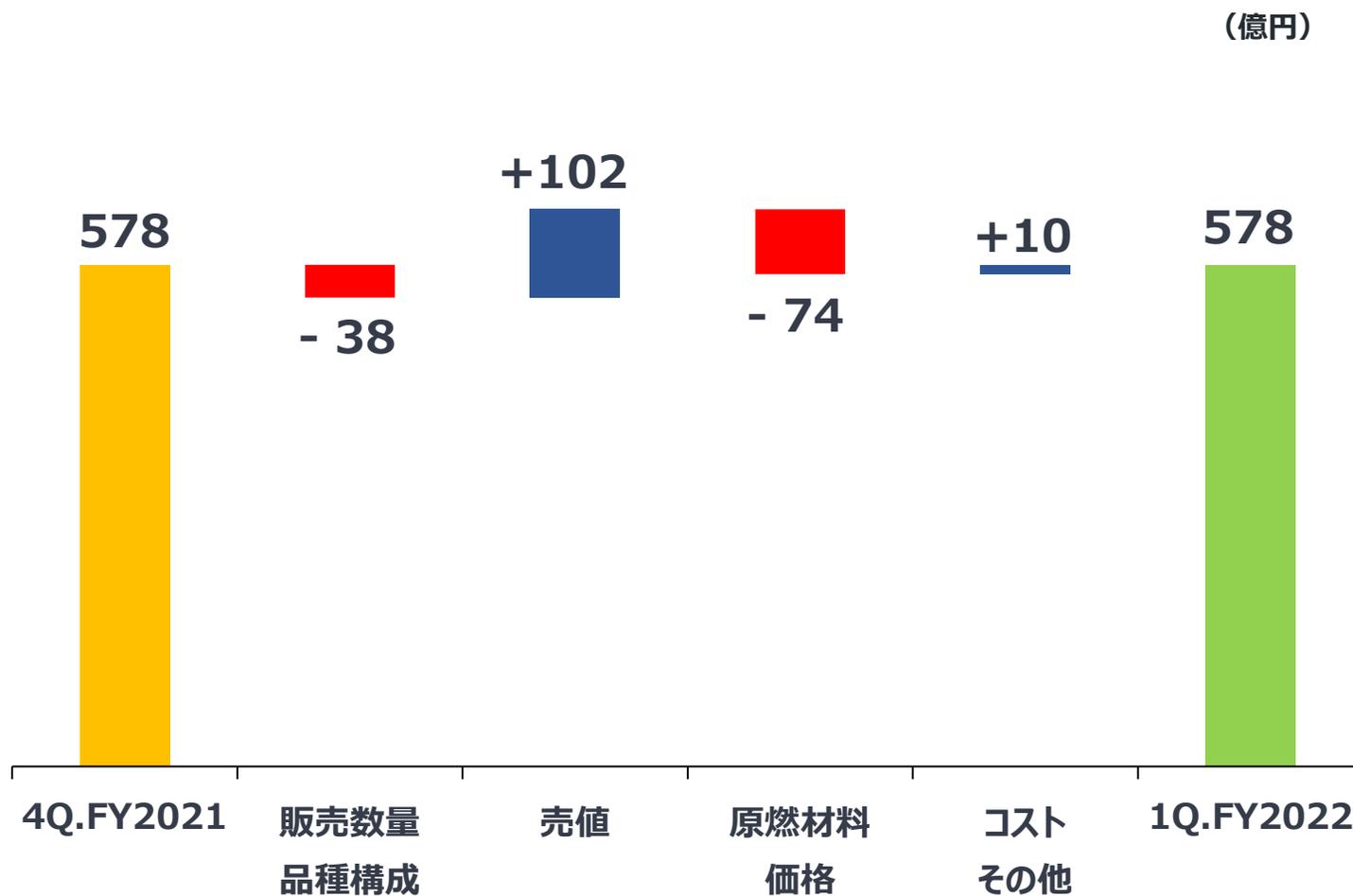
セグメント別 ROCE・EBITDA

(億円)

	営業利益		EBITDA*		ROCE		営業資産	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
ガラス	▲166	277	344	815	-	4.6%	6,400	6,000
電子	378	364	857	976	6.3%	5.8%	6,000	6,250
化学品	505	1,388	935	1,887	8.9%	21.5%	5,700	6,450
セラミックス・その他	42	35	62	55	14.1%	14.0%	300	250
消去ほか	▲1	▲2	▲2	▲3	-	-	-	-
合計	758	2,062	2,195	3,729	4.1%	10.9%	18,400	18,950

リスク要因	営業利益に対するインパクト	補足
為替	1%円高で 7億円 *減益	*JPYに対して全ての通貨が同じ割合で動いた場合の影響額
ドバイ原油	1バレルあたり1ドル上昇した場合、 2.6億円 *減益	*ヘッジ影響除く
化学品市況	①苛性ソーダ: 国際市況が\$ 1 下がると\$ 1 M の減益 ②塩ビスプレッド: \$ 1 下がると\$ 1.2M の減益*	*塩ビスプレッド: 塩ビ市況 - (エチレン市況 × 0.5)

営業利益増減要因分析(1Q.FY2022 vs. 4Q.FY2021)



売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

日本・
アジア アメリカ ヨーロッパ セグメント間 合計

ガラス	建築用ガラス	1 Q.FY2022	319	64	655	-	1,038
		1 Q.FY2021	279	125	488	-	891
ガラス	自動車ガラス	1 Q.FY2022	510	182	243	-	935
		1 Q.FY2021	513	141	253	-	908
		1 Q.FY2022	829	246	898	3	1,976
		1 Q.FY2021	792	266	741	7	1,806
電子		1 Q.FY2022	681	70	3	5	760
		1 Q.FY2021	635	54	2	4	695
化学品		1 Q.FY2022	1,535	140	243	4	1,922
		1 Q.FY2021	1,068	106	196	3	1,373
セラミックス・その他		1 Q.FY2022	81	-	-	117	199
		1 Q.FY2021	75	-	-	101	176
消去		1 Q.FY2022	-	-	-	▲ 130	▲ 130
		1 Q.FY2021	-	-	-	▲ 115	▲ 115
合計		1 Q.FY2022	3,127	456	1,143	-	4,727
		1 Q.FY2021	2,570	426	939	-	3,936

(億円)

ガラス	1Q.20	2Q.20	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22
売上高	1,693	1,249	1,717	1,851	1,806	1,912	1,729	1,896	1,976
建築用ガラス	801	706	840	901	891	991	916	1,011	1,038
自動車用ガラス	889	534	869	943	908	915	808	881	935
(セグメント間)	3	8	7	7	7	6	5	3	3
営業利益	▲ 26	▲ 182	▲ 12	53	95	106	51	21	40

電子	1Q.20	2Q.20	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22
売上高	692	693	715	792	695	690	797	868	760
ディスプレイ	433	433	448	458	461	429	474	457	450
電子部材	238	247	257	316	230	257	318	405	304
(セグメント間)	22	13	10	19	4	5	5	5	5
営業利益	89	85	99	106	87	55	103	123	80

化学品	1Q.20	2Q.20	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22
売上高	1,142	983	1,091	1,296	1,373	1,508	1,626	1,800	1,922
クローラルカリ・ウレタン	695	559	632	755	822	940	1,030	1,112	1,217
フッ素・スペシャリティ	283	247	250	278	269	299	329	343	356
ライフサイエンス	160	173	207	260	279	265	265	343	345
(セグメント間)	4	5	3	3	3	4	3	3	4
営業利益	151	75	98	180	255	340	365	427	452

数量・価格動向

					2021				2022
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
前年同四半期比 (YoY)									
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量		+1割	+1割強	-1桁半ば	横ばい	+1割
			価格		-1桁半ば	+数%	+1割	+1割強	+2割弱
		欧州	数量		微増	+約3割	+1割弱	+3割弱	+10%台半ば
			価格		+1割弱	+4割弱	+約4割	+4割弱	+5割弱
	自動車用生産台数 (IHS Markit 3/18データより)	日本	数量		-4%	+55%	-23%	-17%	-9%
		北米	数量		-4%	+132%	-26%	-14%	-3%
欧州・ロシア		数量		+1%	+84%	-32%	-23%	-14%	
電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積		+17%	+10%	-3%	+4%	+1%
市況実績値									
化学品	東南アジアクロアリ (Bloombergより)	苛性ソーダ	価格	USD/MT	264	342	422	722	722
		PVC	価格	USD/MT	1367	1437	1,363	1,613	1,407
		エチレン	価格	USD/MT	955	963	1,007	1,055	1,213

*Source : Omdia-Display Long-Term Demand Forecast Tracker – 4Q21 Pivot

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

		IFRS				
		17/12	18/12	19/12	20/12	21/12
売上高	百万円	1,463,532	1,522,904	1,518,039	1,412,306	1,697,383
営業利益	百万円	119,646	120,555	101,624	75,780	206,168
営業利益率	%	8.2	7.9	6.7	5.4	12.1
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	69,225	89,593	44,434	32,715	123,840
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	6.1	7.7	3.9	2.9	10.2
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	5.7	5.4	4.4	3.1	7.9
自己資本比率	%	53	51	50	44	49
D/E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.38	0.43	0.47	0.63	0.41
営業CF/有利子負債	倍	0.42	0.35	0.32	0.29	0.54
一株当たり当期純利益 (EPS) *3	円	302.12	399.51	200.85	147.84	559.11
一株当たり配当金	円	105	115	120	120	210
EBITDA *4	百万円	249,880	259,425	231,857	208,459	383,226
為替レート (期中平均)	円/ドル	112.19	110.43	109.05	106.82	109.80
	円/ユーロ	126.66	130.42	122.07	121.81	129.89

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計 (期中平均)

*2 営業利益/総資産 (期中平均)

*3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

*4 EBITDA (支払利息・税金・減価償却費控除前利益) = 税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。 https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

サステナビリティ “製品・技術”を通じて社会的価値を創出

重要機会

AGCグループの主な素材・ソリューション

気候変動問題への対応

建築用ガラス、グリーン冷媒、自動車用赤外線カットガラス、バイオマス炉材等

資源の有効利用

燃料電池用部材、リサイクル原料使用製品（ガラス・耐火物等）

社会インフラの整備

建築用ガラス、苛性ソーダ、次亜塩素酸ソーダ、重曹、塩ビ等

安全・快適なモビリティの実現

自動車用ガラスアンテナ、車載センシング・レーダー用部材、HUD部材等

情報化・IoT社会の構築

建物窓取付アンテナ、半導体製造用部材、ディスプレイ用ガラス、高速通信用部材等

食糧問題への対処

農薬原体・中間体、農業温室ハウス用フィルム等

健康・長寿社会への対応

医薬品原体・中間体、高速通信用部材、水処理用高機能膜等

社会的価値

関連するSDGs

持続可能な地球環境の実現
への貢献



安全・快適な都市インフラの実現への貢献



安心・健康な暮らしの実現
への貢献



サステナビリティ“健全な企業活動”を通じて社会的価値を創出

重要リスク

気候変動問題への対応

資源の有効利用

社会・環境に配慮した
サプライチェーン

地域社会との関係・
環境配慮

公正・平等な雇用と
職場の安全確保

AGCグループの企業活動

継続的な省エネ対策実施、GHG排出量を低減する生産技術・設備開発 等

再生原材料や再生資材の活用、埋立て処分の削減 等

人権尊重・環境保護を重視したサプライヤー管理 等

水使用量削減、生物多様性保全、環境事故撲滅、地域のファン作り 等

従業員エンゲージメントの向上、重篤災害・休業災害の発生防止 等

社会的価値

持続可能な地球環境の実現
への貢献

健全・安心な社会の維持
への貢献

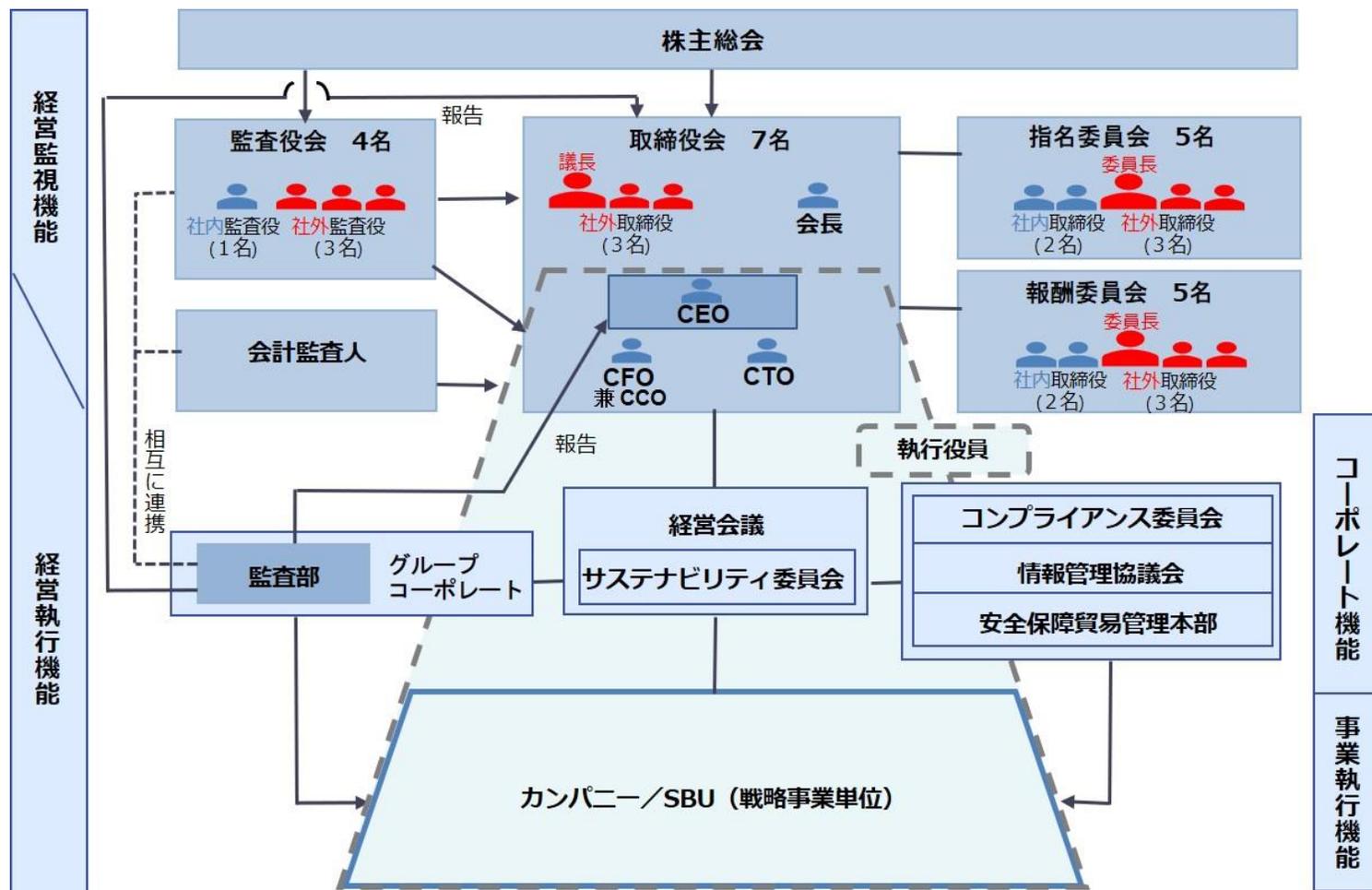
公正・安全な働く場の創出
への貢献

関連するSDGs



発表日	内容
1月13日	AGCの参画するアンモニア燃焼技術開発プロジェクトがNEDO委託事業へ採択
1月25日	EUV露光用フォトマスクブランクの生産能力を倍増
2月8日	中期経営計画 AGC plus-2023 の進捗状況および長期経営戦略「2030年のありたい姿」実現に向けた取り組みについて
2月8日	減損損失の計上に関するお知らせ
2月8日	取締役等に対する株式報酬制度の拠出金額及び交付等株式数の上限の改定について
2月21日	(開示事項の経過) インドシナ半島におけるクロール・アルカリ事業統合新社の概要に関するお知らせ
2月21日	次世代パワー半導体材料開発のノベルクリスタルテクノロジーに追加出資
3月7日	ロシア・ウクライナ情勢による当社事業への影響について
3月9日	3年連続で「健康経営優良法人～ホワイト500～」に認定
3月14日	(開示事項の経過) PTT Global Chemical Public Company Limited によるVinythai Public Company Limited の普通株式公開買付の結果およびVinythai Public Company Limited の上場廃止手続き完了に関するお知らせ
3月18日	ウクライナ情勢に関連した人道支援を決定
3月22日	日本真空光学、「はやぶさ2」ミッション成功への貢献によりJAXAから感謝状を授与
3月24日	国際宇宙ステーションで酸化ガリウム融液物性測定に世界で初めて成功
3月29日	窓ガラスに設置可能なFWA用5Gミリ波透明アンテナを開発
3月30日	コーポレート・ガバナンス報告書更新のお知らせ
4月6日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月6日	タイでクロール・アルカリ事業の能力増強を決定

当社のコーポレートガバナンス体制



: 社内出身の取締役又は監査役
 : 独立性が確保された社外取締役又は社外監査役

FTSE4Good Index Seriesに選定



FTSE Blossom Japan Indexに選定



CDP Climate Change A- 評価



「第5回日経スマートワーク経営調査」4星の格付けを獲得



女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」に選定



「健康経営優良法人2022ホワイト500」に選定



EcoVadisサプライヤー評価で最高ランクを取得

鹿島工場：「PLATINUM」

千葉工場、AGC PharmaChemicals Europe社：「GOLD」

AGC Biologics Copenhagen社：「SILVER」



Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2022に選定

企業としてのデジタル化を評価され、「DX注目企業2021」に選定



Your Dreams, Our Challenge

END

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。